

1. 学校名 呉市立豊浜中学校
2. 活動テーマ名 シーカヤック体験と藻塩づくり
3. 実践の概要・ねらい

本校は瀬戸内海の中央部に位置する島にあり、周囲には穏やかな瀬戸内海の風光明媚な景色が広がる。保護者の中にも漁業関係者がおり、近くには広島商船高専という船舶職員育成を目的とした学校もある。そのため、以前は漁業や海運関係の仕事に進む者も多かったが、近年は少子化のため、そのような進路を目指す者は激減している。

海洋教育についても、そのような環境が身近にありすぎて、あえて意識されていないという現状である。また、以前はボート部など海に親しむ活動があったが、現在はそのような施設設備や環境も無くなっている。体験学習を通して海洋教育の機運を高めていきたい。

4. 実践計画

① テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

単元（活動）の目的・ねらい

隣の島にある、県民の浜にある施設を利用し「シーカヤック体験」と「藻塩づくり」を体験し、海洋レジャーと古代の塩づくりについて学ばせる。

② 実践の評価について

単なる楽しい体験に終わらせず、単元ごとに、生徒に目標課題を与え、終了後に観点明らかにして感想文や発表資料を作成させ、文化祭や参観日などで保護者や地域に発表した。

5. 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点

5月25日（木）海洋技術安全研究所員による造船教室、26日（金）造船所見学

7月20日（木）海洋大学学生による「船長教室」開催

7月中に各学年で、海洋教育の意義や、本校の周囲の環境について調べ学習を行った。また、前日には安全な活動に向けて、注意事項を確認した。

8月25日（金）午前中、1年生藻塩づくり、3年生はシーカヤック体験、午後は3年生が藻塩、1年生はシーカヤック体験活動を行った。その後、11月の文化祭で成果を表会し、学校のホームページで活動の紹介などを行っている。

② 実践の成果

①海洋教育の改善の視点から

今年度は担当教諭が海洋教育 教員研修プログラムにも参加させていただき。学習活動がスムーズに展開できるよう、新たにカリキュラムマネジメントの視点を持って、他教科（理科、社会、家庭科）と連携することが出来た。

②児童生徒の変容の視点から

「藻塩づくり」

事前に資料館で、この地域と海との結びつきや歴史を学習した。



その後、指導員からの説明を受け、作業の工程や内容を理解し、藻塩の入った陶器を加熱、蒸発させる藻塩づくりを体験した。

また生徒は、作った藻塩を、むすびにして食べた。生徒は、改めて自然の恩恵に感謝するとともに、海を利用して生きてきた先人たちの知恵について感動していた。

「シーカヤック体験」

1人1台のシーカヤックを用意していただき、指導員の基本操作や安全に関する注意事項を確認し、海に漕ぎ出し実際の操作活動を行った。

生徒は自然のなかで遊び、感動する喜びを体感することができた。また、人と自然が共存する文化・活動を創造することに思いを馳せたり、自然の力と活動に伴う危険性を理解したり、安全への意識を高めることができた。

③ 教職員や保護者の変容や地域との連携の視点から

今年度、海洋教育 教員研修プログラムに参加した教職員を中心に新学習指導要領における海洋教育の位置づけ、重要性について研修することが出来た。また、本校の取組を保護者・地域に説明する中で色々な方が賛同して下さり、情報提供や学習活動にご協力くださった。

6. 本実践で特に工夫した点、特筆すべき内容や方策

本校が海洋教育に取り組んでいることを知った専門家や地域の方からお話を頂き、ゲストティーチャーとして招聘し、実際に話を聞いたり等、五感を通じた体験をしたりすることが出来た。そのため生徒が海と自分たちの生活を関連させて考えることができた。また、海と関わる仕事をしておられる方との交流を通して、生徒が自らの生き方を考えさせる機会にもなった。

7. 実践から得られた教訓や克服すべき課題や困難

学習活動や単元として、「海に親しむ」「海を知る」の段階にとどまっているため、次年度以降は、生徒がそれぞれに課題を持ち「海と人との共生」につながる探究型の学習活動や単元を開発・展開していく。また、防災・減災学習や観光の分野へも目を向けさせたい。

さらに次年度への課題として、持続可能な社会の担い手を作るために、カリキュラム（教育課程、学習プログラムの編成・開発）において、教科と海洋に「つながり」をどう作っていくか、また、学習活動をどう繋いでいくかが鍵を握る。

そこで教科と海洋教育の横断的なカリキュラムマップを作成すると同時に、単元や学習活動で、生徒に身に付けさせたい資質・能力を再度、学校で明確にし、整理していきたい。

呉市では小学校との一貫教育を進めているが、同じ環境にある、さらに大きな地域としての取組として近隣中学校区との連携を図り、発達段階に応じたカリキュラムの創造・編成について協議し、協働して行っていきたい。



6. 主な連携機関及び内容

- ・蒲刈 B&G 海洋センター : センターのシーカヤック施設を使い、1人に一艇用意していただき体験を行った。

- ・蒲刈藻塩の会：藻塩づくりと隣接する博物館の見学を通して、古代の製塩や人々の暮らしについて学んだ。
- ・東京海洋大学：本校が海洋教育を進めていることを知り、東京海洋大学の学生が「船長教室」を開催してくれた。

キャリア教育の観点からも、「船乗り」を目指す若者の声をしっかり聞く機会を持たせることが出来た。

- ・日本中小型造船工業会：海洋技術安全研究所の方から船に関する知識を教えていただくと共に近くの造船所を見学させて頂いた。
- ・地域自治会：クリーン作戦として校区内の海岸を中心にゴミを集めて回り、ゴミの状況や海岸の環境について地域の方と話す機会を持った。
- ・水族館：海の生物調査として毎年1回理科の教員と水族館職員で生物の生態調査を行い、昨年度との違いを調べている。
- ・とびしま4島の小中学校：「とびしま検定」として島の自然や歴史、人などを調べ学習しガイドブックと検定問題を作成する取組みを行っている。

成果報告書2海洋教育のストーリーマップ_豊浜中学校

1. 学校名 呉市立豊浜中学校
2. 活動テーマ名 シーカヤック体験と藻塩づくり
3. 実践の概要・ねらい

本校は瀬戸内海の中央部に位置する島にあり、周囲には穏やかな瀬戸内海の風光明媚な景色が広がる。保護者の中にも漁業関係者がおり、近くには広島商船高専という船舶職員育成を目的とした学校もある。そのため、以前は漁業や海運関係の仕事に進む者も多かったが、近年は少子化のため、そのような進路を目指す者は激減している。

海洋教育についても、そのような環境が身近にありすぎて、あえて意識されていないという現状である。また、以前はボート部など海に親しむ活動があったが、現在はそのような施設設備や環境も無くなっている。体験学習を通して海洋教育の機運を高めていきたい。

4. 実践計画

テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

単元(活動)の目的・ねらい

【特別活動・総合的な学習】

隣の島にある、県民の浜にある施設を利用し「シーカヤック体験」と「藻塩づくり」を体験し、海洋レジャーと古代の塩づくりについて学ばせる。

本校が海洋学習に取り組んでいることを知り、協力を申し出てくださいました。諸機関と連携し、「船長教室」「造船所見学」

「海の生物調査」「クリーン作戦」などに取り組んだ。

また、近隣の小中学校と協働して、とびしま検定のテキストと問題を作成に取り組んだ。

- [主な連携機関と内容]
- ・蒲刈B&G海洋センター
：シーカヤック体験
 - ・蒲刈藻塩の会：藻塩づくり
 - ・東京海洋大学：船長教室
 - ・日本中小型造船工業会：造船所見学
 - ・地域自治会：クリーン作戦
 - ・水族館：海の生物調査
 - ・とびしま4島の小中学校：とびしま検定

